

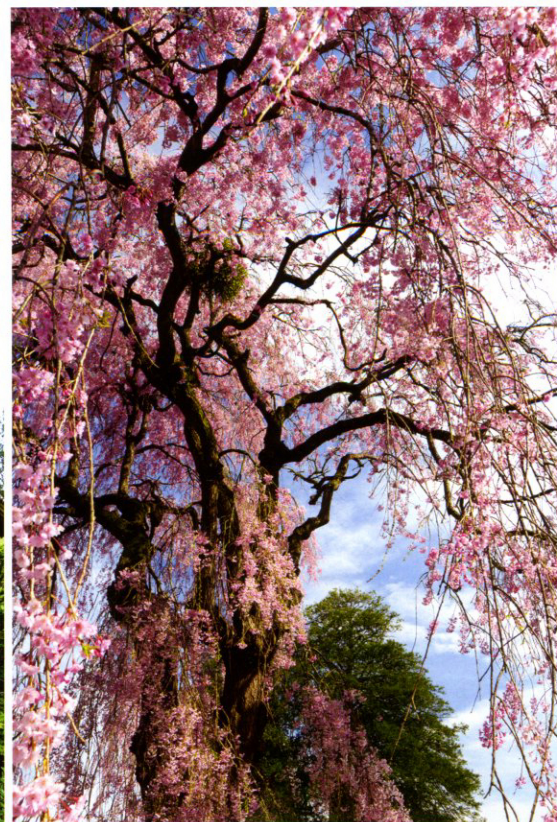


隠れたサクラの名所として
多くの参拝客が足を運ぶ

複数の木の花びらが幾重にも重なり、爛漫と咲き乱れる。

東昌寺

④仙台市青葉区青葉町8-1
☎022-234-9066
⑤拝観自由



右 マルミガヤの古木を、サクラ色の可憐な花びらが彩る。
左 5月頃には本堂前や山門に美しく手入れされたツツジが咲き揃う。

伊達政宗公が仙台開府の際、京都や鎌倉の五山にならって仙台城の北方（鬼門）に資福寺、覚範寺、東昌寺、光明寺、満勝寺（現在は柏木に移転）の五寺を配した。この「北山五山」の筆頭に挙げられるのは、弘安6（1283）年、伊達家初の菩提寺として京都東福寺の佛智禅師が開いた東昌寺である。当時は五山の中心に東昌寺が据えられ、伊達家から厚い庇護を受けていた。

明治6年に青葉神社に境内西側の土地を譲り現在地に移転した後、本堂を囲むように徐々に墓地を開いていった。この時境内の各所に植えられたとされるのが、エドヒガンザクラやソメイヨシノである。今では樹齢50〜100年になるサクラが、4月中旬頃になると競い合うように花びらを開かせる。特に目を引くのは、本堂の南側にあ

る墓地内のエドヒガン。仙台の街を眼下に望む位置に複数の木が大きく枝を伸ばし、一帯を淡い紅色に染め上げる。また、境内の本堂東北隅には、国の天然記念物に指定されているカヤの木が植えられている。一説には政宗公が仙台築城の際に鬼門除けとして選んだとされ、丸い実がつくので「マルミガヤ」と呼ばれている。この雄大にそびえるマルミガヤと、周辺に咲く華麗なサクラの共演も見逃せない。東昌寺のサクラの絶景は参道を上らないと見ることができないため、かつては知る人ぞ知るサクラの名所となっていた。しかしこの数年でその美しさがクチコミで広がり、サクラを目的に多くの参拝者が境内に足を運ぶようになって